

会議要録

会議名	第3回港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会
開催日時	令和6年2月21日（水曜日）午後5時00分から7時00分まで
開催場所	港区立教育センター 研修室1
委員	[出席者] 石鍋浩、吉野達雄、金森強、篠原孝子、篠崎玲子 [欠席者] なし
事務局	小久保篤子（幼児教育担当専門官）、三戸大輔（指導主事） 澤木俊宏、堀内遥、小林あかり（教育支援係）
会議次第	1 開会 2 二次審査実施概要について 3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施について 4 二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 閉会
配付資料	[配付資料] 資料1 二次審査実施概要 資料2 二次審査採点基準表（2事業者分） 資料3 一次審査・二次審査集計結果（※採点終了後に配付） 資料4 第2回港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考委員会会議要録（案） 参考資料1 一次審査集計結果 参考資料2 港区幼稚園、小・中学校ネイティブティーチャー派遣事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書

会議の結果及び主要な発言

事務局	<p>1 開会</p> <p>2 二次審査実施概要について (資料1・2の説明)</p>
A事業者	<p>3 プレゼンテーション及びヒアリングの実施について 【A事業者】 <プレゼンテーション> (企画提案書の説明)</p>
A委員	<p><ヒアリング> 配置計画におけるネイティブティーチャーの兼任について伺いたい。31名のネイティブティーチャーは2校の兼任、31名のネイティブティーチャーは3校の兼任の予定との記載があるが、どのようなイメージで記載しているか。振替したい時に兼任のネイティブティーチャーであれば他の日の授業ができないのではないかと考えたので考え方について伺いたい。</p>
A事業者	<p>兼任をするということに関しては、勤務の状況を踏まえて設定した。実際には先生と打合せのうえ、兼任をするかしないかは検討の余地がある。理論上作成したものであるのもので、意見を頂戴しながらできる限り柔軟に対応していきたい。</p>
A委員	<p>幼稚園には2名、各小学校には4名、各中学校には4名の配置との記載があるが、同じネイティブティーチャーが4日勤務分配置される場合もあるのか。4名が違う日で配置されるのか。</p>
A事業者	<p>現在は固定のネイティブティーチャーを4名配置する想定でいる。同日に入るか曜日によってかは検討したい。同じネイティブティーチャーで対応してほしいという要望があれば、配置計画は柔軟に対応する。各区の実態や学校のニーズは異なるため、アンケートを教育委員会に確認の上で学校に展開し、年間を通じて学校が必要な曜日や学級数に応じた配置の計画を立てている。複数名配置も兼任の配置と同様に、学校のニーズにあわせて、人数を増員する場合もある。教育委員会と確認しながら、学校とやりとりした上で年間の配置計画を作成することになっている。</p>
C委員	<p>ネイティブティーチャーの日本語能力について教えてほしい。習熟度別という説明があったが、1コマの授業で2名のネイティブティーチャーが入る意味で合っているのか教えてほしい。</p>
A事業者	<p>日本語能力については、小学校では先生とコミュニケーションがとれるレベルのネイティブティーチャーの配置を予定している。中学校に関しては先生に甘えさせてもらう部分もあるかと思う。習熟度別に関しては同じ時間帯にクラスを分けて少人数制の授業をそれぞれ行うイメージでいる。複数名配置を利用して習熟度別にグループ分けをしてそれぞれにネイティブティーチャーが付いて指導することを考えている。</p>

E 委員	能力の高いネイティブティーチャーを育てるには研修が必要だが、幼稚園、小学校、中学校の段階に応じて研修を変えないといけないが、どのように準備されているか。それぞれの段階でネイティブティーチャーだからこそできる具体的なことを教えてほしい。また、英検対策とは英検の点数をとるための指導をするように捉えられるが、どのようなことを考えているか。
A 事業者	発達段階での指導内容について、就学前は子どもたちに音やリズムに親しんでもらうような遊びを通しての指導を考えているため、歌やチャンツを活用しながら楽しんでもらう指導を考えていく。小学校低学年、中学年に向けて音を楽しんでもらえるようなフォニックス教材を活用しながら指導していく。中学年、高学年に進むところでは、ネイティブティーチャーと子どもたちとのコミュニケーションの場を多くとるような指導をする。中学校も同様にコミュニケーションにフォーカスしつつ、受験やスピーキング対策もあるので教科書を進めていくというところも踏まえた指導をしていく。英検対策については、様々な自治体で合格者を出すという要望があったので記載したが、不要であれば実施は控えようと思う。
E 委員	ネイティブティーチャーだからこそできることに対する研修について各段階であれば教えてほしい。
A 事業者	ネイティブティーチャーだからこそできることについては、存在感があり、国籍が違う人物が授業に入り、子どもたちの目の前に立つので、英語嫌いにならないか、将来海外に行ったときに積極的に臆せず話せるかという点から、話しかけやすいようにするような研修を取り入れている。また、意欲を向上させるためにネイティブティーチャーが存在すると感じているので、子どもたちに対する接し方についての研修をしている。
B 委員	学校生活におけるケーススタディを行うとのことだが具体的に教えてほしい。また、緊急対応について加害者・被害者双方の状況を確認し、和解できるように対応すると記載があるが、和解を求めているのか。
A 事業者	学校生活を想定したケーススタディについて、例えば、先生から要望をふられたときにどのように対応するか、子どもが困っている姿をみたときにどのように対応するかなどのケースについてネイティブティーチャー同士でディスカッションしたり教えたりする。緊急対応の和解については、穏便にすませられるように話し合う場を設けたり双方の意見を聞いたり解決の方法を探っていく意味合いの記載である。
B 委員	ケーススタディの方だが、学校現場に30人程の生徒がいて、それぞれの特徴があるので、そのようなケースをどのようにネイティブティーチャーに伝えるのか、どのように実践的に研修をするのかももう少し具体的に聞かせてほしい。和解については、ハードなトラブルが起きた際に和解でよいのかを教えてほしい。
A 事業者	研修ではT1、T2のロールプレイングや模擬授業を行い、様々なシチュエーションを扱う。和解については、ハードなトラブルが起きた場合は法務部、労務管理、弁護士も用意しているので専門家を入れて、連携を取り

	ながら事例に合わせて対応していく。対応の仕方はまず教育委員会に報告し、現場の先生に展開していく。
D委員	幼稚園に勤務するネイティブティーチャーに求める資質が触れられていないが、どのように考えているのか。また、指導案集について具体的に教えてほしい。
A事業者	資質については、研修の中で行う審査をしていく中で判断する。審査基準については小・中学校と同じである。指導案集だが、3歳児用、4歳児用、5歳児用すべて用意があり、年齢ごとに35レッスンあるので、各幼稚園の要望に沿ってカスタマイズしていく。
C事業者	<p>【C事業者】 <プレゼンテーション> (企画提案書の説明)</p> <p><ヒアリング></p>
A委員	配置人数について伺いたい。ネイティブティーチャーは他の学校と兼任するのかと、どのような配置にするかを教えてほしい。
C事業者	小学校は数名が2校兼任で担当をする。幼稚園は7名の配置を行い、担当園は2園とする予定である。
A委員	兼任ばかりだと授業ができないことを懸念している。振替の際は柔軟に対応ができるのか教えてほしい。
C事業者	幼稚園の7名は幼稚園専任なので、空いている日数については代理として稼働できるので振替についても問題なく対応する。
A委員	同じ人が来るという訳ではないということでもいいのか。来れる場合と来れない場合があるという理解であっているか。
C事業者	そうである。日によって対応する。引継ぎをし、違うネイティブティーチャーが来ても問題がないようにする。
A委員	小学校、中学校についてはどのような考えか。
C事業者	振替については、追加の対応になるので、別のネイティブティーチャーが行くことになる。
E委員	能力の高いネイティブティーチャーを育てるには研修が必要であり、幼稚園、小学校、中学校の段階に応じて研修を変えないといけないが、どのように準備されているか。それぞれの段階でネイティブティーチャーだからこそできる具体的なことを教えてほしい。
C事業者	特に幼稚園について、遊びのなかで英語に慣れ親しませるといのは大きな技術が必要になる。勝手気ままに遊ばせる訳ではなく、遊びの中で静と動をどのように行っていくか、単調では飽きてしまうので、子どもの反応を見ながらどうやって話を引き込んでいくのかを幼稚園を担当するネイ

	<p>ティブティーチャーには実際に遊びながら学ばせていきたい。中学校については、先生が知識や方法を教えるのに対して、場面・状況に応じた適切な言語の選択をネイティブティーチャーが伝えることが大事だと思う。生徒の発話に対して言い換えをしていく、やり取りをしていく研修が大事だと思っている。</p>
B委員	<p>小学校の指導方法内容について、児童間で差がでるのがライティングとあるが、もう少し詳しく教えてほしい。</p>
C事業者	<p>問題なく進んでいる子もスペリングでつまずいてしまうことが多いので、ワークシートを作っているという意味で記載させていただいた。</p>
B委員	<p>言語習得論に基づいた適切なアプローチのポイントで、コミュニケーションを通して文法を学ぶと記載している部分を具体的に説明してほしい。</p>
C事業者	<p>学習指導要領が変わる中で、実際に伝える内容に応じた表現例を伝えて、文法ありきではなく、表現の違いを学び、体験的に学んでいくのが良いと思っている。</p>
B委員	<p>中学校の英語科国際については分かったが、中学校の場合には通常の週4時間の英語の授業があり、それについて説明が少ないので詳しく教えてほしい。</p>
C事業者	<p>日本人の先生とのチームティーチングを行うことは大切である。子どもたちが教科書で学んだことを使ってみて、会話を成立させる相手としてネイティブティーチャーの存在は不可欠であると考えている。教科書に応じてどのようにネイティブティーチャーをコミュニケーション相手として活用したら良いかについては助言したいと考えている。</p>
D委員	<p>質の高いネイティブティーチャーの資質を三点あげるとしたら何か。</p>
C事業者	<p>一つ目は寄り添う力である。学びというところを教えるではなく、寄り添う姿勢が大切であると考えている。二つ目は子どもの思いをどのように伝えてもらえるかの機会設定を引き出す力である。最後が共同する力である。担任、教科担当の先生がいるので、ネイティブティーチャーがこうしたいというだけではなく、先生の働きかけに対してどう提案して実現していくかが大切であると考えている。</p>
D委員	<p>様々な文化に触れることも大事だと思うがいかがか。</p>
C事業者	<p>ネイティブティーチャーは文化の違いが実体験を通して伝えられる。知識として知っているだけではなく、自分自身の体験としてコミュニケーションの機会を作ることができる。言葉のニュアンスの違いをどのように伝えていくかが大切と考えている。</p>
D委員	<p>課題になっているのは打合せのコミュニケーションがうまくいかないことだと思うがいかがか。</p>
C事業者	<p>営業担当が学校に訪問して、間に入ってネイティブティーチャーに繋げて</p>

	<p>いく。ネイティブティーチャーに相談したいことは電話をいただければ、ネイティブティーチャーに伝えていくので限りある就業時間の中でもコミュニケーションが取れると考えている。</p> <p>4 二次審査結果及び事業候補者の選定について (資料3を配付して採点の集計結果を説明)</p> <p>【二次審査の講評】</p>
D委員	<p>A事業者は人材派遣というよりは業務委託の傾向があるように感じた。教材使用が全面に出ており、幼稚園はもう少し子どもに沿った内容がほしかった。資質に関する質問は子ども一人ひとりに沿ったという回答がほしかったが、教えるという傾向が強かった。</p> <p>C事業者は港区の方針を理解した上での提案になっていたと思う。子どもに寄り添うということが資質に関する質問に出ていたので、子どもの英語の能力が引き出せそうと感じた。</p>
E委員	<p>A事業者はこれだと決めているものがあり、それを行うという意識があるように感じたため、柔軟性がないように思った。C事業者については、柔軟性はあるが、発言がはっきりしない部分があった。</p>
A委員	<p>A事業者はたくさん人数を配置すれば事業がうまくいくと思っているのかなと感じた。想定が甘いように思った。英検やコミュニケーション、和解の部分等で思い込んでいる部分があるように思ったので、その部分を点数に反映した。C事業者は良い講師を配置してくれるように思った。また、学習指導要領や区の姿勢は読み込み勉強しているので、任せられるのではと思った。</p>
C委員	<p>A事業者、C事業者と特色が異なるので点数を付けるのは難しかった。C事業者は港区の特徴を押さえていると思ったが、回答は曖昧な部分があった。質問の回答はA事業者の方が良かった。また、プレゼンテーションの最後の部分についてポイントをおさえて説明ができていなかった。</p>
B委員	<p>A事業者とC事業者は先程委員が言ったとおり、特色が異なり採点が難しかった。どちらもよく準備していたので、どちらの会社が受託してもよくやってくれると思う。A事業者は、制度は充実しているが柔軟性はないように思う。C事業者は情緒的な部分もあり、トラブル対応がどこまで行えるのか不安がある。ただ、区のごことはよく調べているのでその点は評価した。</p>
事務局	<p>【事業候補者の決定】 (再集計結果の説明)</p>
委員長	<p>二次審査の評価点数については、この点数で決定してよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
委員長	<p>それでは、この点数のとおり決定する。この点数の結果をもって、当委員会として、最も得点の高いC事業者を事業候補者として決定してよろしいか。</p>

委員長	<p>(異議なし)</p> <p>それでは、そのとおりに決定する。 → C事業者を事業候補者とすることを決定</p> <p>5 閉会</p>
-----	--